

2020年12月16日

東京2020パラリンピック開催まであと300日を迎えて パラリンピック競技のアスリートたちに 熱い想いを語っていただきました！ ～公式ホームページで動画を公開～

東武タワースカイツリー株式会社

東京2020パラリンピック競技大会のオフィシャルサポーターとして活動する東武タワースカイツリーでは、「VIEW of HOPE」をテーマに、東京2020大会への機運を盛り上げるとともに、世界一高い自立式電波塔である東京スカイツリー*から、世界一を目指す全てのアスリートの「願い」や「想い」を届ける活動をしています。

東京2020パラリンピック開催300日前を迎え、「5人制サッカー」の加藤健人選手、「パラカヌー」の瀬立モニカ選手、「パラテコンドー」の田中光哉選手ら、パラリンピックアスリートの3選手に、「東京2020パラリンピック開催まであと300日を迎えての過ごし方」や「東京2020パラリンピックに向けた想い」、東京スカイツリー天望デッキに設置された願いを届けるモニュメント「WISH RIBBON」に結ぶ「ミライへの願い」など、熱く語っていただきました。

インタビューの動画は、公式ホームページ内の「東京2020特設ページ」からご覧いただけます。

詳細は別紙のとおりです。



△ 加藤健人選手



△ 瀬立モニカ選手



△ 田中光哉選手

©TOKYO-SKYTREE

以上

お問い合わせ先
東京スカイツリーコールセンター TEL 0570-55-0634 (11:00～19:00)

パラリンピック競技選手へのインタビュー動画

東京2020パラリンピック出場やメダル獲得を目指して日々練習を重ねる、パラリンピック競技のアスリートである「5人制サッカー」の加藤健人選手、「パラカヌー」の瀬立モニカ選手、「パラテコンドー」の田中光哉選手の3選手に、東京2020パラリンピック開催まであと300日を迎えた「今」をインタビュー取材しました。インタビュー動画は下記URLからご覧ください。

加藤健人選手 | 5人制サッカー

インタビュー動画：<https://youtu.be/zlOfcLzdNOY>

加藤選手の願い：「障がいのあるなしに関わらず、混ざり合う社会」



©TOKYO-SKYTREE



©TOKYO-SKYTREE

瀬立モニカ選手 | パラカヌー

インタビュー動画：<https://youtu.be/9rOjiu5Aa0U>

瀬立選手の願い：「地元江東区で金メダルを獲ります!!」



©TOKYO-SKYTREE



©TOKYO-SKYTREE

田中光哉選手 | パラテコンドー

インタビュー動画：<https://youtu.be/NJwlsW9rcaY>

田中選手の願い：「僕がパラテコンドーを盛り上げます！」



©TOKYO-SKYTREE



©TOKYO-SKYTREE

<登場アスリートプロフィール>

かとう けんた 加藤健人選手 | 5人制サッカー



©SVOLME

1985年10月24日福島県生まれ。小学3年生時にサッカーを始める。高校の頃、レーベル症という遺伝性の病により徐々に視力が低下。目が不自由な現実を受け入れられずに悩んだ時期もあったが、19歳のときに5人制サッカーに出会う。

2007年に日本代表に初選出されて以降、13年連続で日本代表に選出され続けており、現在は東京2020パラリンピックの出場とメダル獲得を目指している。

<主な成績>

- 2014年 アジアパラ競技会 2位
IBSA※ 世界選手権 6位
- 2015年 IBSA ワールドゲームス 5位
IBSA アジア選手権 4位
- 2017年 IBSA アジア選手権 5位
日本選手権 2位
- 2019年 日本選手権 優勝
IBSA アジア選手権 3位

※IBSA：国際視覚障害者スポーツ連盟

5人制サッカーとは？

1チーム4人のフィールドプレーヤーとゴールキーパーで構成されており、フィールドプレーヤーは全盲・光覚の選手で、アイマスクを装着し、音の出るボールを用いてプレーする。チームにはフィールドプレーヤーの目の代わりとなる「ガイド」と呼ばれるメンバーもあり、相手ゴールの裏に立ち、ゴールまでの距離や角度などの情報を声や音で伝える。「ブラインドサッカー」「ブラサカ」は、このスポーツの国内での普及を目指し日本ブラインドサッカー協会が名付けたもので、東京2020パラリンピックでは「5人制サッカー／Football 5-a-side」という競技名がつかわれている。海外では「Blind Football」とも呼ばれており、視覚障がい者スポーツのクラス分けの用語ではB1クラスに該当する。

せりゅう 瀬立モニカ選手 | パラカヌー



1997年11月17日東京都江東区生まれ。中学生の時にカヌーを始めるが、高校1年生の体育授業中の事故で両下肢麻痺となり車椅子生活となる。約1年のリハビリを経て、2014年の高校2年生でパラカヌー選手として競技に復帰。

以降は世界選手権出場やリオ2016パラリンピックに出場するなど数々の結果を残す。2019年は世界選手権で5位入賞を果たし、日本障害者カヌー協会より、東京2020パラリンピック出場内定を受けている。

<主な成績>

- 2015年 日本パラカヌー選手権大会 女子(KL1)優勝
- 2017年 日本パラカヌー選手権大会 女子(KL1)優勝 / 女子(VL1)優勝
第2回アジアパラカヌー選手権2017
女子(KL1)優勝 / 女子(VL1)優勝
- 2018年 パラカヌーワールドカップ 女子(KL1)7位 / 女子(VL1)優勝
日本パラカヌー選手権大会 悪天候のため中止
- 2019年 パラカヌー世界選手権大会 女子(KL1)5位 / 女子(VL1)優勝
日本パラカヌー選手権大会 女子(KL1)優勝 / 女子(VL1)優勝

パラカヌーとは？

パラカヌーは200mのスプリントで競う競技。障害の程度によってL1（胴体が動かせず肩と腕だけでこぐことができる選手）、L2（胴体と腕を使ってこぐことができる選手）、L3（足、胴体、腕を使うことができるが、足に障害がある選手）の3つのクラスに分かれる。両端にブレードのついたパドルで左右交互にこぎながら艇を前に進める「カヤック（K）」と、本体の横にアマと呼ばれる浮き具がついている艇で、左右どちらか片方のみをこぎながら艇を前に進める「ヴァー（V）」の2種目がある。



1992年7月22日福岡県生まれ。
先天性の両腕障がい（両上肢尺側欠損障がい）で生まれる。
幼少期は剣道、学生時代はサッカーなど様々なスポーツに熱中。
東京2020パラリンピック開催決定を機に、パラリンピックに関わるため東京での障がい者スポーツ関連の企業で経験を積む。
2020年1月の代表選手選考会では61kg級で優勝し、全日本テコンドー協会より、東京2020パラリンピック出場内定を受けている。

<主な成績>

- 2018年 キムウンヨン国際パラテコンドーオープン 1位
パンアメリカパラテコンドーオープン 1位
- 2019年 U.S. オープンパラテコンドー 選手権 1位
5th アジアパラテコンドー選手権 3位
パラリンピックテストイベント ReadySteadyTokyo 3位
サンマリエカップ 1位

パラテコンドーとは？

東京2020パラリンピックから、主に上肢障がいの選手が参加できるキョルギ(組手)が正式種目に決定。その特徴は、腕の切断部分などによりK41~44の4つのクラスに分けられ、東京2020パラリンピックでは、K44 (K43とK44の合同クラス)のみ開催される。男女それぞれ体重別に3階級に分けられる。パラテコンドーでは障がいを考慮して、頭部への攻撃禁止や、蹴りのみで攻撃するなど独自のルールが設定されている。

<東武タワースカイツリーの取り組み>

東京2020特設ページ

東武タワースカイツリーは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルサポーター（東京スカイツリー®の電波塔および展望台の管理・運営）として様々な活動を行っており、本特設ページにて、その活動の様子を随時公開します。



<東京2020特設ページ>

<http://www.tokyo-skytree.jp/tokyo2020/>

願いを届けるモニュメント 「WISH RIBBON」^{ウィッシュ} ^{リボン}

東京スカイツリー®では、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況が続く今、『みんなでこの困難を乗り越え、新たな未来に向けて前進するすべての人の気持ちを後押ししたい』という想いを込めたモニュメント「WISH RIBBON」を、地上350メートルの東京スカイツリー天望デッキに設置しました。このモニュメントには、皆さまの「願い」を書き込んでいただいたリボンを結びつけていただけます。



©TOKYO-SKYTREE



©TOKYO-SKYTREE



©TOKYO-SKYTREE